

塩冶 地区

社会福祉協議会便り

編集・発行 塩冶地区社会福祉協議会 事務所 塩冶コミュニティセンター内 TEL 21-0248
塩冶社協ホームページ <http://enyashakyo.skr.jp/>

塩冶子ども食堂が始まりました!

今年5月から、塩冶社会福祉協議会の新しい事業として、「塩冶子ども食堂」を毎月1回、塩冶コミュニティセンターで実施しています。この事業は子どもを中心にした地域づくりの一助になればと企画したものです。

子ども食堂と聞くと子どもだけのものと思われがちですが、塩冶の子ども食堂は、「おせ(大人)も こどもも じーじも ばーばも」誰でも利用できます。

たくさんの皆さまにおこしいただき、にぎやかで楽しい子ども食堂になるよう願っています。

- 食事代は、子ども(18歳未満)は無料、大人は200円
- 食事に参加するには申込書の事前提出が必要です。
- 参加申込書は塩冶コミセンにあります。
- 参加申込書の提出締切りは実施日の10日前までに塩冶コミセンに提出してください。
- 定員を超えた場合は抽選で参加者を決めます。
- 食堂ではアレルギーには対応しておりません。

この事業は島根県及び出雲市の補助金や皆さまからのご寄附(食材や寄附金等)、たくさんのボランティア(塩冶社協、塩冶民児協、塩冶百寿会、ボランティア)の方々の協力により運営されています。

また食事メニューとレシピは専門家に依頼し、旬の食材を生かした食事となるようにつとめています。

お昼のひととき
をご家族、お友達
同士、ご近所さん
とご一緒にご利用
ください。



こんなプレートランチです!



塩冶社協ホームページ

子ども食堂のページをご覧ください →
参加申込書をダウンロードできます。



塩冶 みんな 子ども食堂

開催日：毎月第3日曜日
5/21、6/18、7/16、8/20、9/17、10/15、
11/19、12/17、1/21、2/18、3/17
(午前11時30分～午後1時まで)

参加申込方法
参加申込書を提出してください。
※アレルギー対応は行っておりません。

開催場所
塩冶コミセン

参加費
子ども：無料
大人：200円

※「参加申込書」は塩冶コミセンにあります。



～ めくもいのある手づくりの福祉のまちづくり ～



塩冶地区社会福祉協議会は毎年度当初に評議員会を開催し、前年度事業報告や決算、新年度の事業計画や予算案等の審議、承認を経て事業を開始しています。

令和4年度もコロナ禍のため、ほとんどの事業が実施できませんでした。今年度は、定着してきた従来の事業を基本に組み立て、新たに「子ども食堂」を立ち上げて、地域コミュニティの増進を図ってまいります。

塩冶地区の住環境の良さを背景に定住人口の増加、特に外国人が増加しています。一方では高齢化が進み、一人暮らしの高齢者世帯や老老介護、認知症対応や少子化の問題もあります。また現在、町内会加入率が40%を割っており、人口や世帯数が増えてもそれぞれがつながりを持たないのであれば、地域社会は委縮してしまいます。地域で安心して気持ちよく暮らすためにも、町内会という社会基盤の意義を考えていきたいものです。

このような状況を踏まえ、塩冶社協は、「めくもいのある手づくりの福祉のまちづくり」を基本目標に掲げ、引き続き、地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉及び子育て・青少年育成を基軸に各種活動を進めてまいります。

塩冶社協の事業財源は香典返しなどの寄附金や参加者の負担金、出雲市・市社協の補助金、塩冶自治協会や塩冶クラブからの交付金等です。これらの限られた貴重な財源を有効に活用するためにも、計画及び実行にあたっては、地区諸団体とも協働し、真に実効ある地域福祉の増進に努めてまいります。

今年度の主な事業は以下のとおりです。

- 1 企画部
 - ・理事会の開催・運営
 - ・関係団体等との連携、地域活動助成事業
 - ・あげそげ塩冶福祉座のパワーアップ
 - ・塩冶子ども食堂の開設
- 2 総務部
 - ・認知症研修会、理事研修会の開催
- 3 広報広聴部
 - ・社会福祉協議会便りの発行
 - ・福祉座談会、地域環境美化活動
 - ・ホームページの更新・管理
- 4 高齢者福祉部
 - ・高齢者福祉大会（中止）
 - ・一人暮らし高齢者交流事業の推進
- 5 障がい者福祉部
 - ・塩冶愛友会や地域団体と連携した交流会等の実施
- 6 青少年育成部
 - ・児童綱引き大会、日本文化体験の集いほか
- 7 ふれあいサロン事業



地区内集会所等でサロン会を実施、参加者が近郊へ遠足する場合、助成金（1回限り）を支給

令和5年度 塩冶地区社会福祉協議会役員名簿

（下線は新任理事）

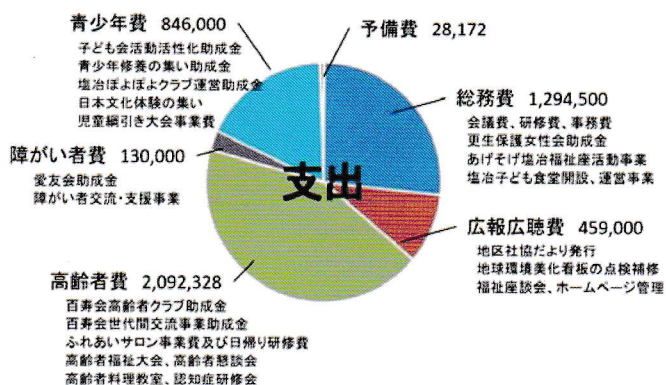
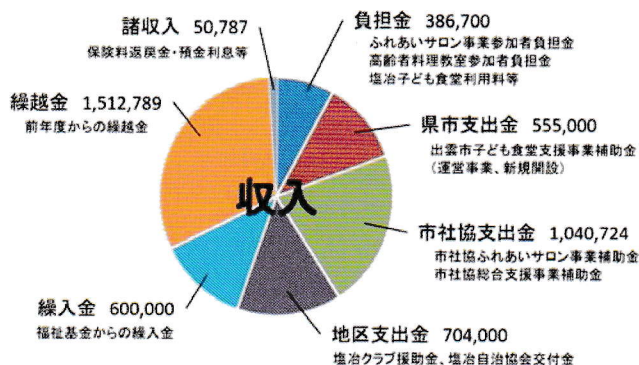
会 長 中尾一彦（会長枠A）
 副会長 周藤祥三（会長枠A）
 理 事 佐藤真澄（会長枠A幹事）、古瀬勝彦（菅沢A）、永瀬弘之（菅沢B）、石原幸子（半分A）、亀谷典子（半分B）、吾郷 滋（築山A）、布野増巳（築山B）、前田隆宏（宮松B）、土屋 淳（下沢A）、安田和美（下沢B）、錦織二三枝（揚東A幹事）、小村誠治（揚西A）、珍部高広（揚西B）、星野民子（弓原A）、石川由美子（弓原B）、布野達也（高西南A）、大賀幸恵（高西南A）、高塚勝昭（高西北A）、船木克吉（大正海上B）、石原健二（北天神A）、岡本貴行（北天神B）、渡邊世志子（北天神B幹事）、坂本正人（中天神A）、谷戸奈緒子（南天神A）、曾田弘喜（南天神B）、川上修二（天神団地A）
 平尾庸子（会長枠福祉座B）、深田悦子（会長枠福祉座B）、加藤幸子（会長枠福祉座B）、吾郷佐智子（会長枠福祉座B）、杉原弘江（会長枠福祉座B）、藤原登美恵（会長枠福祉座B）

Aの任期：2022年4月22日～2024年4月25日

Bの任期：2023年4月21日～2025年4月24日

令和5年度予算

予算額 4,850,000 円



天神 サロン会

健康づくりと オカリナ演奏

5月18日(木)、塩冶コミュニティセンターにおいて今年度1回目のサロン会を開催し、参加者は22名でした。初めに、「健康サポート教室 ～いつまでも元気な身体でいるために～」と題して介護老人保健施設寿生苑の理学療法士及び言語聴覚士による講話と健康体操が行われました。心身のセルフチェック、生き生きと身体を保つ方法、口や喉の体操など健康な生活を維持していくために大変参考になる内容でした。

また、体操にも皆さん真剣に取り組まれていました。

「人生100年時代」と言われていますが、毎日続けて取り組むことの重要性を認識しました。参加者からは「自分の現在の健康状態を知る良い機会となった」、「口の健康の大切さを知った」などの声が寄せられました。



次に、オカリナ愛好グループゆるりーの皆さんによる「オカリナ演奏」が行われました。オカリナで奏でる美しく優しい音色に感動するとともに、演奏に合わせて唱歌や懐かしの歌謡曲などを歌ったり身体を動かしたりして楽しく過ごすことができました。とりわけ「塩冶賛歌」は、久しぶりに皆さんと一緒に歌うことができたということでもとても喜ばれました。

帰り際に参加者が発した言葉「心も身体も癒された」に全くもって同感です。ちなみに「ゆるりー」という名称は、オカリナの音色に癒されながら、ゆったりゆる〜く楽しみたいとの思いで名付けられたそうです。



【一口メモ】「オカリナ」は、古代文明時からあった土笛をもとに、西洋音階（ドレミ）をつけたもので、19世紀半ばにイタリアで作られました。

(中天神理事 坂本正人)

宮松健康体操 サロン会

トロッコ列車と 電嵩温泉へ

5月17日(水)、朝から快晴に恵まれてお出掛け日よりの中、3年振りの外出となりました。観光バスに乗り、木次駅まで行き、トロッコ列車に乗りました。



新緑の心地よい風が列車の中を吹き渡り、車窓から奥出雲おろちループ橋、坂根駅から三段式スイッチバック、すぐ隣に線路があり、バックして乗るという仕組みもあり、またトンネルの中は真っ暗、すごい大きな「ウォー」と何か龍でも出てきそうな音、車内はランプがつき、龍と星、すごく幻想的な世界でした。



谷底まで約100mある三井野原駅で降り、ここからは玉峰山荘の車が迎えてくれて、お昼をご馳走になり、その後、宮松まで帰ってきました。

参加された方からは「何もかも(天候、食事等)最高だった。」「何より良かったのは久しぶりに近所の人と話が出来たことです。」と喜んでいただきました。みんな元気で帰れたことに感謝します。(宮松 杉原弘江)

トロッコ列車の旅は思い出深い旅になりました。私は木次町三日市23番区に生まれて小学生まで住んでおり、木次の桜土手は私の遊び場でした。木次駅は団塊世代の集団就職を見送ったり、高校を卒業して京都へ旅立った記憶があります。トロッコ列車に乗るときに、駅の南側に子供の頃に利用していた散髪屋を60年ぶりに見て、思わず写真を撮りました。交通が鉄道から車に移行するに従い、町が寂れてきました。今回の旅はとても思い出深い旅になりました。(宮松 岸 忠明)

ご寄贈御礼

このたび、次のみなさま方から塩冶地区社会福祉協議会に対し、香典返し及びご寄附をいただきました。

ご厚志に深く感謝いたしますとともに、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。浄財は、塩冶地区の福祉事業のために使わせていただきます。

今後とも、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

(3月1日から6月30日まで) 敬称略

香典返し

寄附者名	故人名	区域名	寄附金額

篤志寄附

寄附者名	区域名	寄附金額	寄附の趣旨

※ 掲載欄の ― は、掲載を希望されない方

子ども食堂へのご寄贈御礼

このたび、次のみなさま方から子ども食堂へご寄附をいただきましたこと、心よりお礼を申し上げます。今後ともご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。

篤志寄附

寄附者名	品名	区域名

日本文化体験の集い



6月3日(土)、玉ねぎとじゃがいもの収穫を妙伝寺の畑で行いました。参加者は3カ所の児童クラブに通う子どもたち38人のほか、保護者やスタッフなど合わせて74人、今回は島大生2人にも協力いただきました。



晴天の中での子どもたち、畑のない家庭からの参加も多かったようで、親子で元気な声が響いていました。手にのせたミミズを「見て見て、ミミズだよぉ〜!!」とはつらつとした顔で見せてくれました。子どもたちが収穫した玉ねぎは約500個ほどあり、じゃがいもと合わせて全員に持ち帰ってもらいました。



児童クラブから、「先日はありがとうございました。皆さん、美味しかったと喜んでおられました。」「子どもたちもたくさん持って帰ることができ、大変喜んでおりました。」との感想がありました。別の日には出雲二中の生徒さんにトウ立ちした玉ねぎの抜き取りやキャッサバの植付け、さつまいもの植付けを手伝っていただきました。

(青少年育成部 星野民子)

***** 編集後記 *****

メジャーリーグの大谷翔平選手の活躍をよく目にする。話しをしたことも会ったことないのに、同じ日本人というだけで誇らしく嬉しい。もし日本人でないアジア人の活躍を目にしたとしても、ここまで共感することはないだろう。テニスの錦織圭選手の活躍は、島根県人としてより共感できるし、出雲市出身の里見香奈女流棋士の活躍は、より増して共感する。同じコミュニティに属する人に対して、親近感が湧いたり、応援したくなったり、仲間意識を感じる。

コミュニティが小さければ小さいほど、この共感度は大きくなるように思う。塩冶地区から、同じ町内から、次世代のスーパースターが出てくれることを期待せずにはいられない。

(理事 吾郷 滋)

この地区社協便りは、「出雲市社会福祉協議会の会費、寄付金、共同募金を財源とした助成金」を財源の一部としています。